１．　評 価 結 果 概 要 表

作成日　平成 20年11月　5 日

【評価実施概要】

事業所番号	0192500015		
法人名	有限会社　アマランス		
事業所名	グループホーム　あまらんす		
所在地	余市郡赤井川村字赤井川409番地1 電話：　0135-35-3789		
評価機関名	株式会社　社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南３条東２丁目１		
訪問調査日	平成20年10月30日	評価確定日	平成20年11月12日

【情報提供票より】（　平成20年年9月　30日事業所記入 ）

（１）組織概要

開設年月日	昭和・(平成)　18年6月　19日		
ユニット数	２ユニット	利用定員数計	18　人
職員数	18 人	常勤13人，　非常勤 5人，　常勤換算 9,9 人	

（２）建物概要

建物構造	木造　造り
	2階建ての　1～2　階部分

（３）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	30,000円		その他の経費（月額）	光熱水費：20,000円 暖房費（10-5月）:9,000円
敷　金	(有)（家賃の1ヶ月分　30、000　円）　無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(　円) (無)		有りの場合 償却の有無	有　・　無
食材料費	朝食	200　円	昼食	350　円
	夕食	400　円	おやつ	50　円
	または1日当たり　1,000　円			

（４）利用者の概要（9月30日現在）

利用者人数		18 名	男性　5 名	女性	13 名
要介護１		4　名	要介護２	4	名
要介護３		7　名	要介護４	0	名
要介護５		3　名	要支援２	0	名
年齢	平均	82.5 歳	最低　70 歳	最高	91 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	余市協会病院　赤井川診療所　ねりあい歯科医院　小嶋病院　他

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「あまらんす」はＪＲ余市駅から冷水峠を越え、バスで30分ほどの距離にある自然豊かな赤井川村の一画に位置している。広大な敷地にビニールハウスや畑、駐車場があり、ホームの入り口までは、なだらかな坂道が続いている。建物は、1階が「大地」2階が「空」の2ユニットで構成されており、屋内は茶系を基調とした落ち着いた雰囲気を作り出している。運営者は、自分自身が老後に「お互いに、助け合って安心して住むことのできる家」を作りたいという思いで平成18年に「あまらんす」を設立した。「おたがいさま」という理念は、運営者と管理者が中心となって開設に備え作り上げた。社会福祉協議会が主催しているホームヘルパー養成講座の実習生の受け入れなどを通して地域貢献を行っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 今回が初めての自己及び外部評価である。 今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 管理者は常勤の職員に自己評価表を1部づつ配布し、看護職員、介護職員が自己の業務に関連する項目を検討、記録し各々の意見を管理者が取りまとめ作成している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6） 3ヶ月に1回開催しており、家族、村議会の議長、社会福祉協議会の職員、村役場福祉課職員、区会長、町内会と事業所の運営者、管理者が参加している。事業所の行事や利用者の生活状況、災害対策、村の行事などについて話し合われている。今年の8月に実施した2周年記念の焼肉パーティーには、運営推進会議のメンバーや村長が参加し利用者との交流を持つ機会となった。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8） ホーム便りの発行は定期的には行われていないので、3ヶ月毎の発行を目標としているところである。毎月の金銭出納報告には一人ひとりの利用者の様子をまとめた手紙を同封している。面会時には管理者や職員が積極的に話し合うようにしており、遠方の家族には頻繁に電話連絡を行い、気軽に話し合える関係を築いている。面会時に職員と十分に話をして、元気になって帰るという家族もいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 町内会に加入し、今年の敬老会には職員が手伝い、利用者が4名参加している。「歩こう会」では地域の人々と一緒に歩き、応援をしたり昼食を共にしている。11月には支援センターで行われる高齢者交流会への参加を予定している。また、蕎麦打ちのボランティアの訪問があり、その際には近隣住民が20数名参加し、積極的に地域との交流を図っている。

２．　評 価 結 果 （詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成１８年の開設に備え運営者と管理者が中心となって「おたがいさま、人は、みな誰もが誰かを支え、そして誰かに支えられ生きている」という運営理念を作り上げた。	○	「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」という基本方針に沿って、地域でのその人らしい生活を支援するための具体的な理念を検討することができるよう、期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者から「申し訳ない」という言葉がある時は、「おたがいさま」と応えている。また、職員間で業務の分担をする時にも、お互いを支えているという意味で「おたがいさま」と感謝を伝えている。	○	理念の意味を掘り下げることで、理念が事業所の具体的なケアや記録などに反映されるよう、期待したい。
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今年の敬老会には、職員が手伝いに行き利用者4名が参加している。「歩こう会」では地域の人々と一緒に歩き、応援をしたり昼食を共にしている。また、11月に生活改善センターで行われる高齢者交流会へ参加を予定している。蕎麦打ちのボランティアが訪問した際には、近隣住民20数名が参加し、積極的に地域との交流を図っている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表の作成は、管理者が常勤の職員に評価表を1部づづ配布し、看護職員、介護職員が自己の業務に関連する項目を検討、記録し、各々の意見を管理者が取りまとめ作成している。今回の自己評価で虐待、権利擁護、プライバシーの保護などの用語を検討したことで研修の必要性を再認識するに至った。	○	今回が初めての自己評価ということもあり、評価項目の解釈が難解であったということなので、事業所での研修や自己学習を深めることで次回の評価に活かすことができるよう、期待したい。

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回の開催であり家族、村議会の議長、社会福祉協議会の職員、村役場福祉課職員、区会長、町内会と事業所の運営者、管理者が参加している。事業所の行事や利用者の生活状況、災害対策、村の行事などについて話し合われている。	○	運営推進会議に利用者の意見が反映されるように、利用者の心身の状態に応じて会議への参加が実現できることを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所を運営していく上で不明な点や、今回の外部評価を受ける際に提出する書類の記入方法などについて、村役場福祉課から指導を受けている。利用者の住所地について相談し円滑に入居できるよう支援している。また、村役場の職員が見学に訪れることもある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りの発行は、定期的には行われていないので3ヶ月毎の発行を目標としている。毎月の金銭出納報告には一人ひとりの利用者の様子をまとめた手紙を同封している		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には管理者や職員が積極的に話し合うようにしており、遠方の家族には頻繁に電話連絡を行い、気軽に話し合える関係を築いている。面会時に職員と十分に話をして元気になって帰るという家族もいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は2ユニットの全ての利用者を把握することができるよう、ユニット間で固定せず夜勤時や緊急時に対応ができるようにしている。退職時の挨拶は、職員と管理者でその都度最適な方法を選択している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	近隣市町村の社会福祉協議会などから提供される研修案内を職員の段階に応じて受講することができるよう、勤務扱いや費用負担をしている。内部研修では、看護師が「脳」、管理者が「接遇」などをテーマに実施している。外部研修では、口腔ケアや嚥下の仕組みなどについて学んでいる。11月には１名が認知症介護実践者研修を受講する予定である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成18年の開設時に余市町のグループホームで日勤と夜勤の実習に入ったが、その後は交流を持つに至っていない。運営者が管理者を務めている温泉施設を貸し切り、同業者との交流会を企画したが日程調整が難しく実現しなかった経緯がある。	○	村内に同業者が無いという困難性もあるが、近隣市町村の同業者との連携を図ることで、さらに事業所の質を高めていくことができるよう、期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	地域包括支援センターや病院、家族から相談を受けた場合は、自宅や入院先を訪問し面談している。本人や家族に見学に来てもらい、お茶の時間などを一緒に過ごしている。サービス利用開始時は居室で話し合う時間を設けたり、居間で過ごすことができるよう言葉かけをしている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者から編み物の綴じ方や漬物、調理の方法、茸の収穫時や漬け方などを学んでいる。男性の利用者は、お茶の時間を知らせるなどのリーダー的役割を担っている。利用者が興奮している時に、寄り添い、抱きしめることもあり、共に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示が出来る利用者には会話をする事で希望を聞き、表現が困難な利用者に対しては、職員が利用者とのかかわりの中で感じた事や出来事などを職員会議で話し合い、出来る限り一人ひとりの利用者の意向に添った対応が出来るように配慮している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	入居時は、家族からの情報や管理者、介護支援専門員、職員で話し合い暫定的な介護計画を立て、入居後利用者の現状を把握して正式な介護計画を作成している。介護計画は、介護支援専門員が中心となり、本人や家族の思いや意向を把握するための専門の用紙を使用して作成している。作成した介護計画は、家族に説明し意見を聞き了解を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現在、定期的な見直しは半年毎に行っているが、利用者の精神症状の変化や食事の変更、身体状況の変化に応じて随時介護計画を見直している。不定期に介護計画を見直す時は、電話で家族に説明して意向を聞き、後日、変更した介護計画書を送付して了解を得ている。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制があり、看護師が常勤しているので、食事が食べられなくなった時など、状態に応じて入院を回避し、事業所で点滴対応を行う事ができる。かかりつけ医の受診も家族と相談して行い、家族の状況に応じて病院で家族と待ち合わせて利用者の受診を支援している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も家族や利用者の意向により、かかりつけ医の継続受診は可能になっている。遠方からの入居者でかかりつけ医が遠い場合は、かかりつけ医に詳しい健康状態の紹介状を書いて貰い、近くの病院に変更する事もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、家族と本人に事業所の方針を説明と同時に延命処置についての同意書を交わし、可能な限り看取りを行う事を説明している。重度化した場合、家族に連絡して状況を具体的に説明して意向を確認している。重度化や終末期に向けた方針は、家族と機会ある毎に繰り返して話し合いを行い、対応を常に共有出来るように配慮している。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報は、事務所で保管している。記録を行う時は、台所のカウンターの高い位置で記録し、他の利用者や家族に見えないように配慮している。利用者に話しかける時は、語尾が強くならないように優しく話しかけるように配慮し、職員同士もお互いに対応や言葉かけで気づいた時は、注意し合うなどの工夫をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れとして食事時間や朝の体操の時間など、ある程度決まった日課があるが、声をかけても利用者の気持ちが向かない時は無理強いする事なく、一人ひとりのペースで生活出来るように配慮している。買い物や温泉など、利用者一人ひとりの希望に沿って柔軟に対応し、その人らしい日々が送れるように配慮している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
おにぎり					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立は、魚、肉、麺類などの基本を決めて、食材の状況や利用者の希望を取り入れて作成し、その日に食べた物を献立表に記入している。食器洗いや食器拭き、片づけなど利用者の状況に合わせて手伝って貰っている。誕生日には、希望の献立を聞いて対応している。職員は、食事の介助を終えてから持参した弁当を後で食べるということもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、月曜日から土曜日の午後に行い、一人の利用者が週２回入浴出来るように予定を立てているが、利用者の希望によっては、日曜日や午前の入浴も可能になっている。運営者が管理者を務めている温泉に出かけるなど、利用者が楽しんで入浴出来るような配慮をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	昔馴染みの友達に会いに行ったり、通院時に、以前住んでいた家を見に行ったりと、希望に沿った対応をして気晴らしができる生活を支援している。畑でミニトマトやピーマンなどの野菜を作り、収穫を楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や通院が主な外出であり、週１回位の頻度で出かけている。冬季も雪かきを職員と一緒に行ったり、散歩を楽しむ利用者はいるが、思うように外出できないため、２，３人ずつ一緒に大型ショッピングセンターなどへ出かけて外出を楽しんでいる。	○	通院以外の日常的な外出が少ないので、利用者の気分転換のためにも、外出頻度を増やすことができるよう、期待したい。
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかける事なく、玄関にセンサー付きの犬(置物)を置くなどの工夫をして、利用者の安全面に配慮している。利用者が外出した時は、一緒に出かけたり、状況によっては見守りながら後ろを歩くなど、利用者にの状態に合わせた対応をしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、３月の冬季避難訓練、春の日中避難訓練、10月の夜間避難訓練と年３回色々な状況を設定して、消防署に協力して貰いながら、利用者も参加して訓練を行っている。近隣には日頃より声かけをして、災害時には協力して貰えるようにお願いしている。	○	地域に災害時の協力は呼びかけているが、避難訓練への参加はまだ行なわれていないので、事業所の避難訓練に、近隣や地域の人々の参加を呼びかけて実施される事を期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事、水分摂取量は毎日記録して状況を把握している。食欲がない利用者に対しては、職員と共に、他の利用者も声かけをして励ましたりする事がある。普通食の摂取が難しくなった利用者に対しては、刻み食やおかゆ、ミキサー食など調理形態を工夫し口から食べることが出来るように配慮している。	○	現在、献立に食材を記録しているが、専門的な栄養指導を受けていないので、定期的に管理栄養士の栄養指導を受けることができるよう、期待したい。
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間、台所など共有空間は家庭と同じような作りになっていて、１，２階の行き来も自由に出来、利用者は自宅の居間で過ごすようにゆったりとくつろいでいる。共有空間には、特別な装飾をする事もなく、家庭的な家具やカレンダー、時計、観葉植物などが置かれ、落ちていて過ごせるような配慮をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れたベットや箪笥などの家具、思い出のトロフィーなどが持ち込まれていて、利用者一人ひとりが居心地よく過ごせるように工夫している。家族の写真や塗り絵などの作品などがさり気なく飾られ、個性のある居室になっている。		

※ ▒ は、重点項目。

※ ＷＡＭＮＥＴに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式１）を添付すること。